

# 鈴木道政2期目初の論戦

## 自民内に協調と不満

定例道議会は27日に代表

質問に入り、鈴木直道知事の2期目就任後初の本格論戦が始まった。知事選で推した与党の最大会派自民党・道民会議(54人)は1期

民主・道民連合  
梶谷大志氏

道政執行方針は英辞麗句ばかりで、中身は政策を総花的に並べた空疎なもの

選挙戦では原発再稼働の是非など自らの態度を示すことを避け、政策論議を停滞させ低投票率を誘発しているとすら感じる

次世代半導体製造拠点の整備は、知事の前倒りの具合に比べてスピード感のない曖昧な進め方だ

道議会代表質問 自民、民主両会派の  
知事への主な発言

自民党・道民会議  
三好雅氏

ゼロカーボン北海道をステップアップさせていこうとする意気込みが伝わる

「ほっかいどう応援団会議」は寄付額が大気に増加するなど一定の成果を収めている

(知事の看板政策の)地域おこし協力隊の支援強化は、協力隊だけに目的を絞ると、青年団体など地元関係者との間に溝を作りかねない

目と同様に支える姿勢を強調する一方、会派内に漂う知事への不満を表すように厳しい指摘もあった。野党会派の民主・道民連合(26人)は北電旧原発再稼働など重要政策の態度を明らかにしない知事を批判し、対決姿勢を鮮明にした。

一方で知事答弁後に三好氏は指摘として、ラレダマス(東京)の次世代半導体工場の千歳市進出に、「(建設業など)道内の人手不足を助長しないよう最大限配慮を」と注文。地域おこし協力隊の支援強化には「地元青年団体などとの間に溝を作り出しかねない」と強い言葉で懸念を示した。

背景には会派内に「知事にはビジョンが見えない」「実績が乏しい」などの声があくすぶっていることがあり、ベテラン道議は「2期目は是非々々の姿勢を強めるべきだ」と話す。

対する民主会派の議員は、知事選で立憲民主の推薦候補を担ぎ、知事と全面対決したことから批判色を前面に出した。この日は道側から事前に示された東京電力福島第1原発の処理水を巡る答弁への不満から質問開始を30分遅らせて抵抗。登壇した会派会長の梶谷大志氏(札幌市清田区)は「原発再稼働の是非などへの考えを示さない姿勢は大変不誠実だ」と非難した。再質問、再々質問まで行ったが、知事からは「質問が分かる課題をはじめ課題にしっかりと向き合って取り組んできた」などとかわりされ攻めきれなかった。7月14日までの会期中に論戦を深められるかは見通せない。(金子俊九、岩崎あんり)

水を巡る答弁への不満から質問開始を30分遅らせて抵抗。登壇した会派会長の梶谷大志氏(札幌市清田区)は「原発再稼働の是非などへの考えを示さない姿勢は大変不誠実だ」と非難した。再質問、再々質問まで行ったが、知事からは「質問が分かる課題をはじめ課題にしっかりと向き合って取り組んできた」などとかわりされ攻めきれなかった。7月14日までの会期中に論戦を深められるかは見通せない。(金子俊九、岩崎あんり)